

辺野古の海はいのちの海

辺野古の海は5300種もの希少生物が生息する多様性あふれる海です。昨年10月には、米環境NGOが世界で最も重要な海域「ホープスポット」と認定しました。ところが今、埋立て工事により海に生息していた貴重なサンゴや海藻藻場は絶滅しようとしています。昨年3月には、1頭のジュゴンが死骸で発見され、残りの2頭も行方不明です。工事の影響とも考えられます。

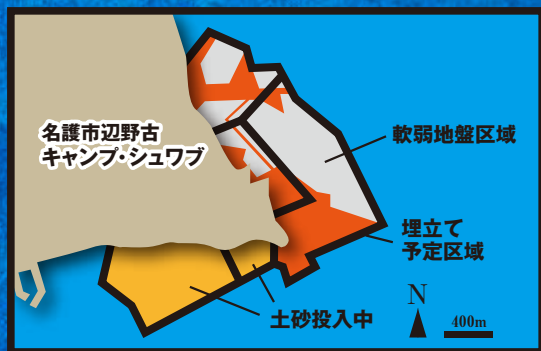


沖縄県は違法な工事に対し

「承認撤回」しかし政府は工事を強行

2018年8月、沖縄県は、環境保全の不徹底、軟弱地盤や活断層、高さ制限を超える建物の存在など、数々の違法性を理由に埋立て承認を撤回。これに対し国土交通省は、「私人」に成りすまして「行政不服審査」を請求した防衛省の言い分を受け入れ、承認撤回を取り消しました。法制度の主旨を覆す暴挙です。県は違法と提訴しました。裁判所は地方自治、民主主義の基本に立ち公正な審理を行うべきです。

防衛省が検討する地盤改良地区



条例違反の赤土混じりの土砂投入 しかし、1年で1%しか進まず

防衛省は、県条例に違反し赤土が40%も混じった土砂を辺野古の海に投入し続けています。しかし、1年経っても1%しか投入量が進んでいません。また、20,620万㎡とされる土砂の8割を県外から搬入する予定を、全て県内で調達可能としました。膨大な土砂を県内で採取し、沖縄の地形を破壊しようというのでしょうか？

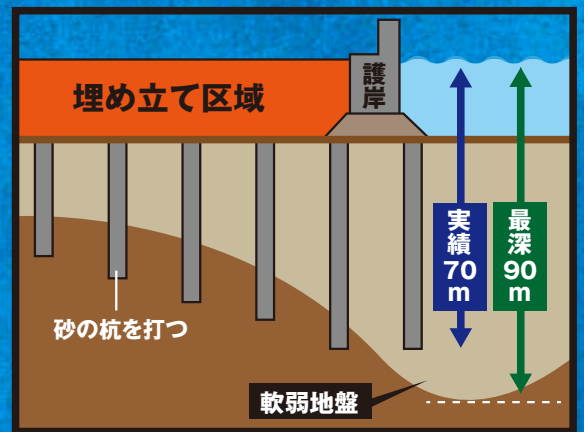
いれども基地建設がどわると思いませんか？

軟弱地盤改良なんて出来ない 既に破綻している埋め立て計画

防衛省は昨年12月、当初の予定を大幅に上回り、完成まで更に最低12年、総工事費も当初想定3,500億円の3倍、約9,300億円に膨らむことを認めました。県の試算では2兆5,500億円にもなります。「マヨネーズ並み」と言われる水深90mにも及ぶ軟弱地盤改良のための設備、実績は世界のどこにもありません。

ところが、政府関係者が半数を占め、工事関連会社からお金をもらっている学者などで構成された「技術検討会」のお墨付きを得て工事を続行しようとしています。

埋め立て工事はすでに破綻しています。これ以上の税金の無駄使いは止めるべきです。



県民投票 72%が埋め立て反対

昨年2月行われた辺野古の埋め立ての是非を問う沖縄県民投票で、埋め立て反対が投票総数の71.81%に達しました。1昨年の知事選挙、衆議院補欠選挙などでも、米軍基地建設に反対が多数の意思です。安倍政権は、沖縄の民意に従うべきです。

新基地が出来ても返還されない



安倍政権は6年前「普天間基地の5年以内の運用停止」を約束しましたが、昨年2月に期限が過ぎても知らん

ふり。また2017年6月、当時の稲田防衛大臣は「緊急時に民間空港が使用できなければ普天間は返還されない」とも答弁。昨年12月には辺野古の工事の大幅延長も認めました。危険性はいつまでも除去されません。